



高崎山通信

お待たせしました

2025. 春号

episode 1

新顔さんいらっしゃ〜い

高崎山のサルたちは、11月から3月の間に恋の季節を迎えます。

大人のオスザルは好意を持ったメスザルに求愛し、メスザルが興味を示せばカップルが成立します。結婚というルールはなく自由に恋を楽しみます。

そんな中、恋の季節になると、どこの群れにも属さず単独行動をしていたオスザルが突然姿を現すことがあります。

まさに「新顔さんいらっしゃい!」といったところです。

最初に現れたのは、2月初旬、B群の周辺をうろついていた新顔の若いオスザル（写真①）でした。B群の様子を偵察していたそのオスザルを、サル寄せ場のスタッフが写真に収めることが出来ました。

次に現れたのは、かなり高齢の新顔のオスザル（写真②）でした。このオスザルは2月中旬頃、C群の近くでメスザルとカップルになっていました。

新顔さんは、群れに長くいるオスザルたちよりもモテます。高崎山のサルたちにとって、新しい遺伝子は大歓迎なのかもしれません。サルもスタッフも嬉しい、新顔さん情報でした。

※残念なことに、2頭とも群れに定着はしませんでした。



新顔さん(写真①)

B群周辺に現れた新顔のオスザル



新顔さん(写真②)

C群のファーと親しげな新顔のオスザル

仲間がふえると
うれしいな〜♪



episode 2

デコピン 1才になりました!

昨年、産まれた赤ちゃんザルたちが、1才を迎える季節になりました。その中で、2024年4月21日に誕生した第1号赤ちゃんザルのデコピンも、1才を迎えました。生まれたばかりの頃は歩くこともできませんでしたが、生後2週間を過ぎてからは、しっかりと自分の力で歩けるまでに成長しました。それからのデコピンは、母ザルのアキラから離れて一人で遊ぶようになり、生後2カ月を迎えた頃には、晴れてサル寄せ場内にある「おさるの保育園」デビューを果たしました。保育園デビュー後のデコピンは、年上の子ザルたちと一緒に遊ぶようになり、その様子はまるで、お兄ちゃんたちから遊び方を教えてもらっているようでした。

ニホンザルの赤ちゃんは、生後3ヵ月頃から母乳だけでなく固形物を口にするようになり、生後半を過ぎると母乳よりも固形物の量が徐々に増えていきます。そして、生後1才になる頃には母乳を卒業して大人と同じようなものを食べるようになります。

ニホンザルは季節によって、いろいろなものを食べます。春は新芽や若葉、夏になるとセミやカブトムシ、クワガタムシといった昆虫類です。秋はドングリやアケビなどの木の実、そして冬は、エサが少ないので木の枝や木の皮を食べます。1才になる子ザルたちも、これからどのようなものを食べればよいのか学習していきます。

今では、デコピンもアキラの横で一生懸命ホホ袋に小麦をためていますが、まだイモ取り競争に加わる様子は確認できていません。いつか、大人に負けずにイモを取る様子を見られることを、スタッフ一同願っています。



デコピンの成長の記録



生後間もないデコピン



デコピン保育園デビュー



1才の子ザルに遊んでもらっている

スウスウと元気に育っています!



アキラのお乳を飲むデコピン



生後10ヵ月頃のデコピン

episode3

ハダンの誤算

6

2024年12月中旬、朝からB群第1位のオオムギは、片思い中のアキラを見失い、ウロウロと園内を探しまわっていました。そんなオオムギにハダンがつきまとい、その後、ハダンと恋仲になりました。そのことがきっかけで、ハダンは普段とは違い、声を荒らげ威圧するような態度をとっており、まるで後ろ盾を得た「虎の威を借る狐」状態でした。

そんな中、B群の中心にいる「ヤケイ一族」のビケイ（ヤケイの母）に対して、ハダンは怯むことなく横柄な態度をとったことから、ケンカに発展してしまいました。さらに、セイヤ（ヤケイの娘）もハダンを威嚇するのですが、気が大きくなったハダンは、オオムギをバックにつけて優位のまま騒動は一旦収まりました。

その日の午後、再びトラブルが発生しました。ヤケイ一族がハダンに集団で攻撃をしたのです。中心には、午前中に姿を見せなかったヤケイがいました。ヤケイは、午前中の騒動を聞きつけたかのように執拗にハダンに攻撃をしていました。あまりにひどい惨状にオオムギが仲裁に入り、ハダンに攻撃を繰り返すヤケイ一族を引き離そうとするのですが、彼女らの手は緩むことはありませんでした。その後、一瞬の間を見てハダンは逃げ出して森の中へと姿を消しました。

そしてオオムギは、興奮冷めやらぬヤケイに何度も咬みつくような素振りを見せていました。まるで「いい加減にしろ！」と言わんばかりの態度でした。

それから約1時間後、ようやくヤケイは落ち着きを取り戻し、オオムギに近づき毛づくろいを始めました。さらにセイヤまで毛づくろいに加わり騒動は収まりました。



痛い…

事件後まだ傷跡が残っているハダン



ヤケイ一族に攻撃されるハダン

ハダンに攻撃をしたサルたち・・・ビケイ、ヤケイ、ゼッケイ、トケイ、ゴウモウ、セイヤ

episode4

密会

恋愛期、恋多きB群第1位オオムギは、3月上旬はシワクというメスザルに片思い中でした。

オオムギは、常にシワクの後ろについて歩き、シワクが横になれば熱心に毛づくろいをしてあげたり、餌が沢山ある場所では、小麦と一緒に食べさせてあげたり、とても尽くしていましたが、お付き合いをするまでには発展しませんでした。15日間もずっと片思いしていました。

そんな中、シワクが群れの中心部に姿を現さない日がありました。オオムギはとても不安そうで、シワクをソワソワと探していました。同日、B群第4位のマルオも姿を見せませんでした。（3月16日の昼から17日の午前中）

17日の昼、姿を見せたシワクとマルオはお互い距離が近く、さらにシワクの方からマルオに接近していました。

そんな様子を見て、面白くないのがオオムギです。わざと2頭の間に入り込んだり、自分のプライドを保つためか、マルオにマウンティングをしようと、マルオの背中に両手でタッチして合図を出したのですが、マルオはそれに応じませんでした。



どこいった…？

次の日も、朝からオオムギはシワクを探し、園内をウロウロしていました。私たちも、シワクの姿を確認しようと、群れの周辺部を探していると、案の定マルオと付き合っている場面を確認しました。

実は、1週間ほど前も、オオムギがシワクに想いを寄せる中、第5位ショットもシワクを好きになった時期があり、その時もシワクとショットが数時間ほど姿を見せなかったことがありました。

シワクとしては、群れの第1位オオムギから付きまといられていると自由に恋愛ができないので、こうして上手くオオムギを避けながら恋愛を楽しんでいたのでしょう。

シワクを見失っているオオムギ サル社会の恋の季節は、色々な恋模様が見られます。

サルもヒトの気持ちがわかる…かも？



ソワソワ…



ソワソワ…



ススス…

ソワソワ…

密会后、距離の近いマルオとシワク



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎 3098-1 TEL097-532-5010 FAX097-536-2500

E-mail info@takasakiyama.jp http://www.takasakiyama.jp/

見てみて！ スタッフブログ・フェイスブック・Instagram・Youtubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

来てきて！ 大分市内の小学生・中学生は入園無料です。学生証などを見せて入園してください。